

平成27年11月9日

平成27年度人材委員会活動報告（中間報告）

1. 会議開催状況

(1) 人材委員会

(第1回)

日 時：平成27年11月9日（月）13:00～13:50

場 所：筑波大学 春日地区情報メディアユニオン3階 共同研究会議室1

議 題：

- ・ 秋季理事会への活動経過報告について
- ・ 総会等の日程見直しとマネジメント・セミナーについて
- ・ 平成27年度海外派遣事業の実施と平成28年度以降の同事業の課題について
- ・ 研修事業のあり方について

2. 活動成果

(1) 第11回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー

テーマ：大学図書館と研究支援

日 時：平成27年6月19日（金）9:30～12:30

場 所：ホテルニューオータニ熊本 3階「鳳凰の間」（熊本市西区春日 1-13-1）

受講者数：218名（93機関） ※詳しくは、開催報告書（添付）のとおり。

(2) 平成27年度海外派遣事業の実施

海外派遣者選考委員会の選考結果に基づき、長期1件、短期4件（個人3、グループ1）計6名を派遣することとした。（選考結果については、理事会承認後、第62回総会にて報告済み）11月9日現在、終了3名、滞在中1名、今後出国2名である。

(3) 研修事業関連

今後の研修事業のあり方について、関係組織との連絡・調整を引き続き実施した。

国公立大学図書館協力委員会の下に設置されている「研修のあり方に関するワーキンググループ」に対し、引き続き委員を派遣し協議に参画した。ワーキング・グループの活動期間は、平成27年12月まで。

3. 今後の検討事項

(1) マネジメント・セミナーのあり方について

(2) 平成27年度海外派遣事業の実施と平成28年度以降の同事業に係る課題について

(3) 研修事業のあり方について

第11回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー 開催報告書

平成 27 年 9 月 15 日
人 材 委 員 会

1. テーマ

大学図書館と研究支援

2. 日時

平成 27 年 6 月 19 日(金) 9:30～12:30

3. 場所

ホテルニューオータニ熊本 3階「鳳凰の間」

(熊本県熊本市西区春日1丁目13-1) <http://www.newotani-kumamoto.co.jp/>

4. 受講者数

館長・副館長級	72機関	74名
部長級	40機関	40名
課長級	89機関	95名
その他	6機関	9名
合計	(重複を除く) 93機関	218名

※その他：文部科学省、課長補佐級受講者

5. プログラム (別紙1 基調講演及びオープン・ディスカッション概要 参照)

	司会：米澤 誠 (人材委員会／東北大学附属図書館事務部長)
9:30～ 9:40	開会 挨拶：植木俊哉 (人材委員会委員長／東北大学附属図書館長)
9:40～10:50	基調講演 「進化し続ける大学図書館の機能と役割」 講師：有川 節夫 (九州大学名誉教授・前総長)
10:50～11:05	休憩
11:05～12:20	オープン・ディスカッション コーディネータ：東島 清(人材委員会／大阪大学附属図書館長) コメンテータ： 有川 節夫(九州大学名誉教授・前総長) 引原 隆士(京都大学図書館機構長・附属図書館長)
12:20～12:30	まとめ・閉会

6. 受講者アンケート結果（別紙2「アンケート集計結果」参照）

回答者：126名（受講者218名中） 回答率：57.8%

7. 決算

予算		支出		予算との差異
協会費	800,000円	マネセミ経費支出額	760,592円	39,408円

内訳及び前年（第10回）との比較

第10回支出	金額	第11回支出	金額
会場等使用料	147,200	室料	240,000
		音響・映像等及び操作料	397,000
		サービス料	24,000
		消費税	52,880
会場費計	147,200	会場費計	713,880
講師旅費	2,260	講師旅費	10,320
講師謝金	36,000	講師謝金	36,000
講師費計	38,260	講師費計	46,320
講師飲料	0	講師飲料	392
配付資料印刷費	4,321	配付資料印刷費	0
その他計	4,321	その他計	392
合計	189,781	合計	760,592

8. 運営スタッフ

人材委員会	東北大学附属図書館 事務部長	米澤 誠
	大阪大学附属図書館 事務部長	井上 修
	筑波大学附属図書館 副館長	江川 和子
	筑波大学附属図書館 情報サービス課長	佐藤 初美
	お茶の水女子大学附属図書 図書・情報課長	森 いづみ
	京都大学附属図書館 情報サービス課長	井上 恵美
	香川大学図書館 情報図書グループリーダー	北條 充敏
	九州大学附属図書館 図書館企画課長	郷原 正好
総会当番館 (協力)	熊本大学附属図書館 図書館ユニット長	澤田 敬
	熊本大学附属図書館 図書館ユニットチームリーダー	濱崎 千雅
	熊本大学附属図書館 図書館ユニット総務担当係長	林田 善美

以上

第 11 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー概要

テーマ: 大学図書館と研究支援

〔平成 27 年 6 月 19 日 (金) 9:30~12:30〕

於ホテルニューオータニ熊本 3 階「鳳凰の間」(熊本市)

1. 基調講演「進化し続ける大学図書館の機能と役割」

有川 節夫 (九州大学名誉教授・前総長)

法人化前の 1998 年 4 月に九州大学附属図書館長に就任して以来、法律や基準、答申・建議等に照らして、常に図書館の抱える問題点を明白にして戦略的な改善を行うよう努めてきた。その経験に基づき、大学図書館は、これまでどのように変化してきたのか、今後どのように進化し続けなくてはならないのかについて考えたい。

学習・教育を支援する大学図書館の活動は今後も重要となる。一方で、オープンサイエンスに代表される研究支援も進めていく必要がでてきている。大学図書館は学生の視点を持ち、答申・建議等をうまく利用して、図書館から大学改革に挑む力学が必要であり、図書館の組織・財務構造を強化するためにも戦略をもって取り組むことが重要である。

次に、大学図書館を支える専門性を持った職員の育成については、1952 年に制定された「大学図書館基準」の記述は、職員の専門性についてもかなり具体的なことが書かれているなど、今日でも軽視してはいけない。2010 年の「大学図書館の整備について (審議のまとめ)」にも職員の育成・確保の重要性が挙げられている。日本ではサブジェクトライブラリアンが定着していない (講座助手がある種のサブジェクトライブラリアン的な役割をしていた) が、研究を進化させるためにはサブジェクトライブラリアンを第三の職種とするなど、専門性の高い職員の育成にもう少しこだわる必要があるだろう。図書館職員が勤務を続けながら高度な知識を学べる環境や、教員として教育に参画するなど幅広く活躍できる体制を整えていく必要がある。例えば九州大学では、図書館職員がライブラリーサイエンス専攻の学生にもなり講師にもなり、境目のない活動となっている。

大学図書館の新しい役割としては、内閣府の「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会」が示したオープンサイエンスへの対応がある。教育研究を自ら行う大学図書館として、情報リテラシー教育だけでなく研究をも行うことである。九州大学では、図書館に教材開発センター、記録資料館、研究開発室を設けることで教育研究を行うこともできている。実際に、研究戦略や国際交流など大学から期待される役割も増えており、今後ますます他部局との連携が必要になってくるだろう。大学の中核組織として図書館は絶えず進化し続け、新しい領域の仕事に取り組んでいかななくてはならない。そのためには、従来の管理・サービス部門といった切り分けから、研究支援を重点的に行う部門を設けるなどの体制の変化を含め、館長のリーダーシップや幹部職員の役割が極めて重要である。

2. オープン・ディスカッション

コーディネータ: 東島 清 (人材委員会・大阪大学附属図書館長)

コメンテーター: 有川 節夫(九州大学名誉教授・前総長)

引原 隆士(京都大学図書館機構長・附属図書館長)

はじめにコメンテーターの引原機構長から「大学図書館と研究支援」について、特に早急に対応が迫られているオープンサイエンスを巡る動きに絡めて、オープンアクセスポリシーが日本ではなかなか進んでいない状況や、オープン化においてステイクホルダー（研究者・学会・出版社）の変化に対して大学図書館が取るべき対応が示された。また、オープンアクセスは、学術情報の生産・発信の直接的な支援や学問の継承と創成への支援・手段であり、組織として発信していくことが重要であること、新しい方向性やグローバルな視点に対応していくこと、ポリシーの学内への理解は、日頃の積み上げが大切であり、タイミングを見て進めることなどの考えが示され、今後、大学や国際間で動かしていく必要があることについても言及があった。

続いて、コーディネータの東島館長の進行のもと、有川前総長、引原機構長からの講演に対して質疑応答があり、大学図書館のマネジメントの知見を深めるとともに、大学図書館の果たす役割を考えるうえで有意義な機会となった。

(質疑応答の概要)

○有川前総長の講演の中で言われた、「明るい図書館職員」とは具体的にはどのようなことか？

→図書館職員が常にポジティブであることが重要であり、学生が図書館に行くのが楽しくなるようであれば一番良いだろう。

○図書館が新しい仕事に取り組む上で、学内での慎重な意見に対してどのように対応してきたのか？

→「研究」というキーワードを出すと教員からの反発がある。「学生」「学習」の視点で進めて行くと良いだろう。

○教員のオフィスアワーの場として図書館を使うというアイデアが興味深い。具体的な方策は何か。

→金沢工業大学での事例だが、図書館の広いフロアの半分に教員が集まっているイメージである。学生が気楽に行ける、そこに行けば教員が居る環境づくりが大切である。

○入学直後の学生に対して、高校までの勉強と大学での自発的学習への切り替えについて、教員がうまく指導できていないのではないかと？

→学び方のスキルと知識・データの両方を身に付けることが大切である。プロ意識を持って、教育と結びつけて主体的な学びを促す教育が必要である。

○具体的な研究支援とは何か？

→教員は研究について深堀りしてしまう。サブジェクトライブラリアンの仕事として期待されるものではあるが、図書館員が幅広い視点から助言することが支援となる。また、常に研究マインドを持って研究そのものに関わるのもよいだろう。

→オープンアクセスの指標は、どこかのステイクホルダーが言い出したことで、そのまま図書館職員が研究者に示してはいけない。査読システムが正しいのかどうか、図書館職員でないとできない仕事である。いま、生データと加工データ間の価値判断を評価することが求められている。研究論文をオープンにすることで研究のブラックボックスになっていた点がわかってくるし、出版社への対抗手段や新分野開拓の手法にもなるだろう。論文誌に携わってきた図書館職員にとって重要な価値観であり、そのような職員を育てることであろう。

○第3期中期計画策定に向けて、組織再編などドラスティックな変化が求められている。今後の図書館または図書館長としての立ち位置について伺いたい。

→図書館の業務を進めていくには、全学的なことを考慮していく必要がある。館長だと多くの部局の長の1つであるが、副学長であると大学全体を考えることになり、そこが重要である。

○オープンサイエンスを考える上で、日本の知の安全保障のためには、大学図書館がもっと国に働きかけていくべきではないのか？

→これまで「大学図書館の整備について（審議のまとめ）」などの作成に関わってきたが、基本的には国の施策に反映されてきていると考えている。答申や建議などはしっかりチェックしていく必要があるだろう。

○古典籍資料などの画像化・構築をしているが、オープンサイエンスと捉えてよいのか？

→オープンサイエンスは理系だけの問題ではなく、古典籍資料などはCitizen Scienceに資するものとして良い例であると思う。

→誰のために、何のために日本の資料を公開するのか、場合によっては英語のデータを追加しないとオープンにならないこともあるので留意が必要である。

○大学出版会と大学図書館の役割は今後どのようなようになるのか？

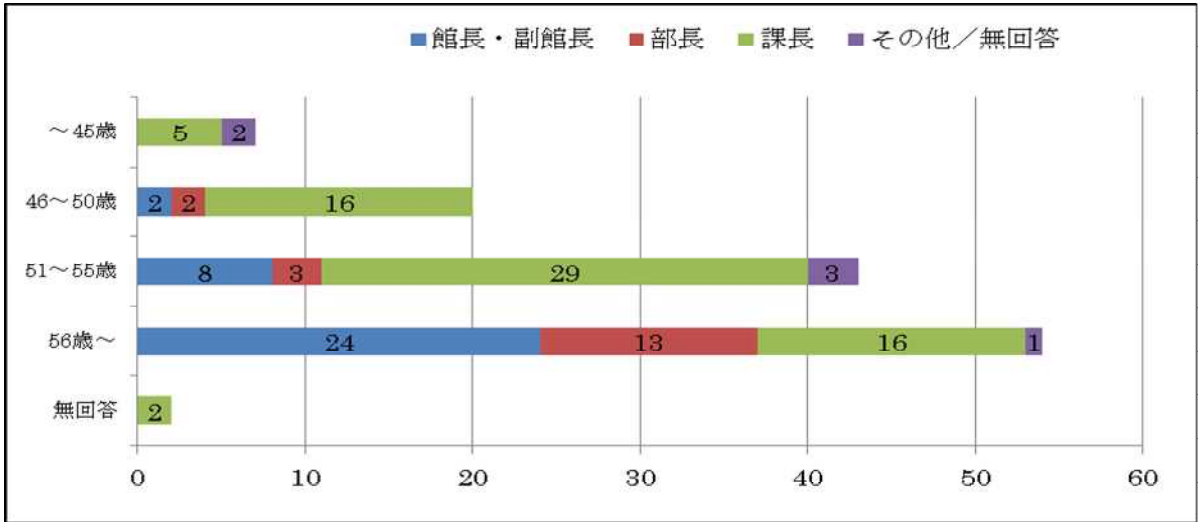
→人文社会系のデータをオープンにするかはよく問題になるようだ。大学出版会は良いが商業出版社との関係は少し難しい部分もあるだろう。

第 11 回国立大学図書館協会マネジメント・セミナー アンケート集計結果

[平成 27 年 6 月 19 日(金)9:30～12:30 於ホテルニューオータニ熊本 3 階「鳳凰の間」(熊本市)]

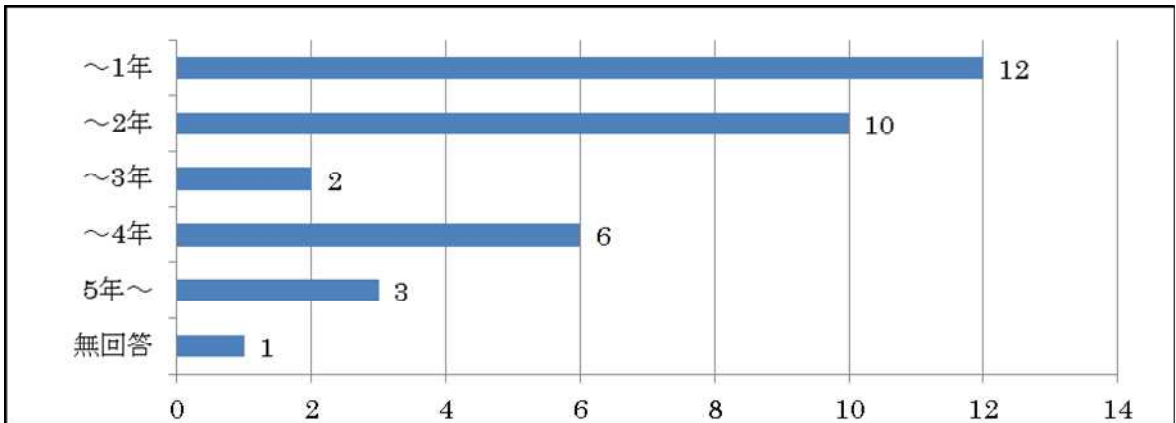
1. 回答数 126名(受講者218名中), 回答率: 57.8 %

2. 年齢



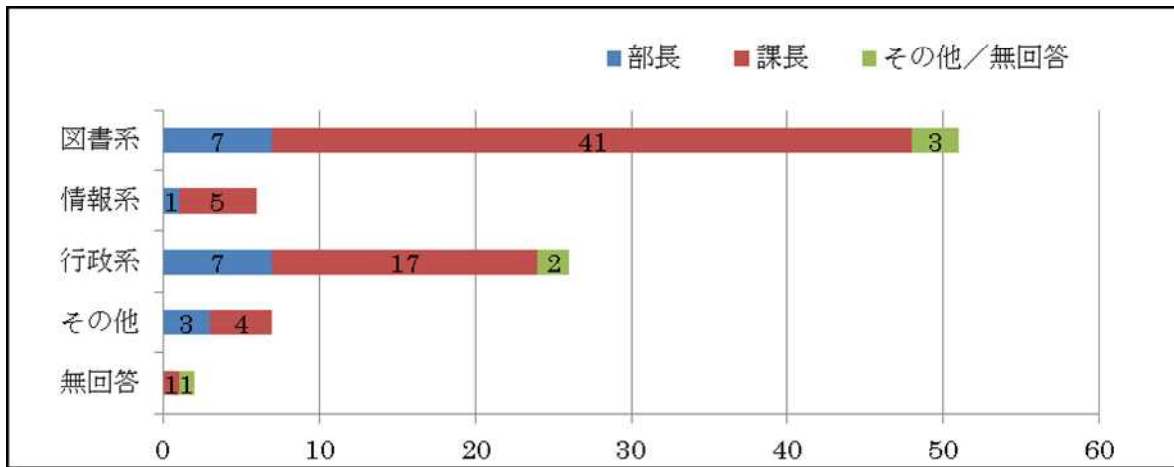
	~45 歳	46~50 歳	51~55 歳	56 歳~	無回答	合計
館長・副館長級相当職	0	2	8	24	0	34
部長級相当職	0	2	3	13	0	18
課長級相当職	5	16	29	16	2	68
その他/無回答	2	0	3	1	0	6
合計	7	20	43	54	2	126

3. 館長・副館長級相当職の経験年数



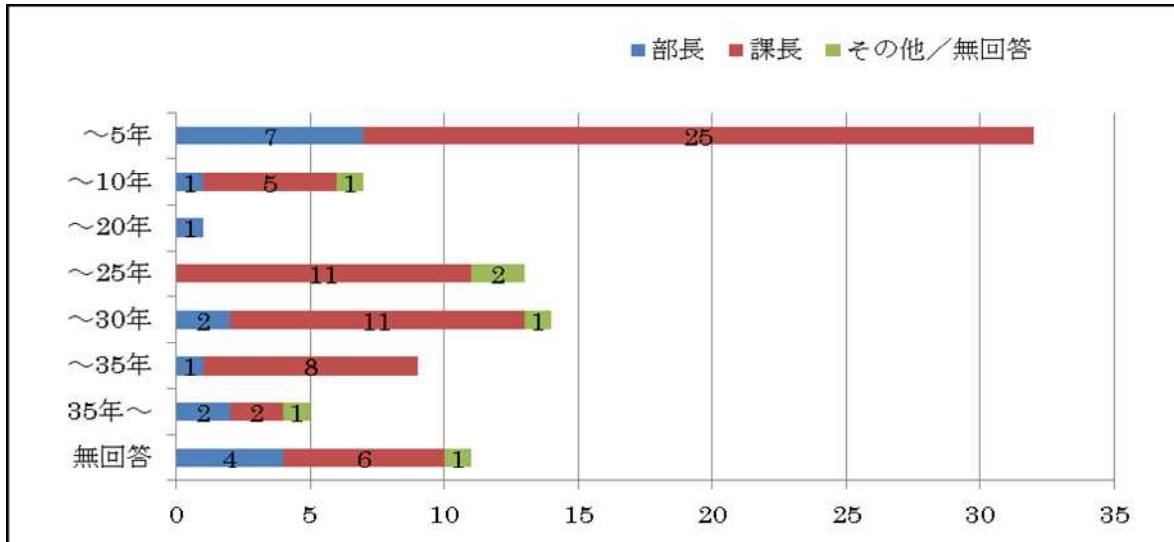
	~1年	~2年	~3年	~4年	~5年	5年~	無回答	合計
館長・副館長	12	10	2	6	0	3	1	34

4. 事務職の職系



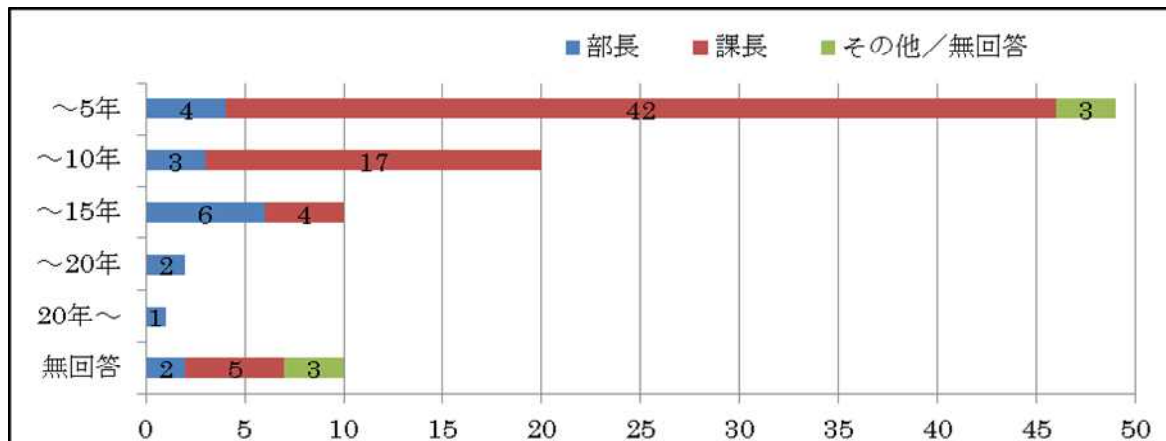
	図書系	情報系	行政系	その他	無回答	合計
部長級相当職	7	1	7	3	0	18
課長級相当職	41	5	17	4	1	68
その他/無回答	3	0	2	0	1	6
合計	51	6	26	7	2	92

5. 事務職の図書館勤務年数



	～5年	～10年	～15年	～20年	～25年	～30年	～35年	35年～	無回答	合計
部長級相当職	7	1	0	1	0	2	1	2	4	18
課長級相当職	25	5	0	0	11	11	8	2	6	68
その他/無回答	0	1	0	0	2	1	0	1	1	6
合計	32	7	0	1	13	14	9	5	11	92

6. 事務職の管理職経験年数

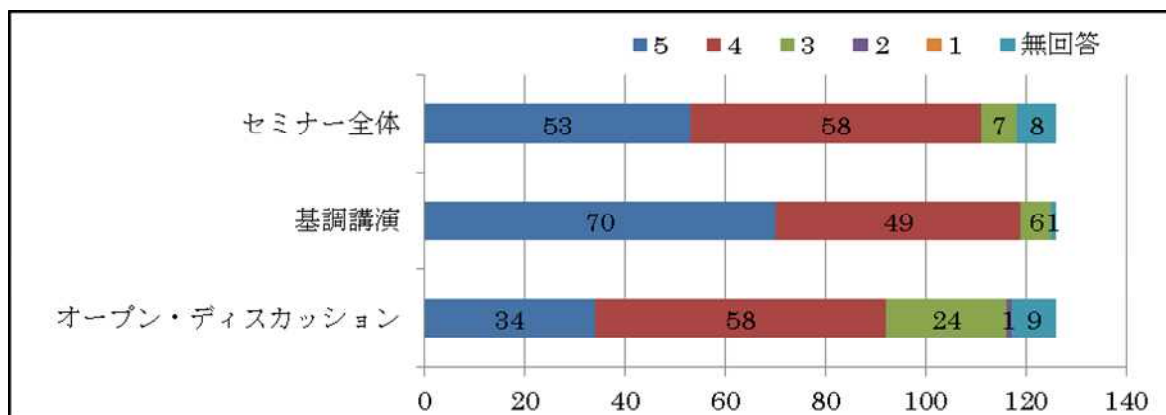


	～5年	～10年	～15年	～20年	20年～	無回答	合計
部長級相当職	4	3	6	2	1	2	18
課長級相当職	42	17	4	0	0	5	68
その他/無回答	3	0	0	0	0	3	6
合計	49	20	10	2	1	10	92

※【参考】

記名者数 全 39 名 (館長級:19/34, 部長級:4/18, 課長級:16/68, その他:0/6)

I セミナー全体および各題目が参考になったかどうか



	5:たいへん参考になった	4:参考に なった	3:ふつう	2:参考に ならなかった	1:全く参考に ならなかった	無回答
(1)全体	53	58	7	0	0	8
(2)講演	70	49	6	0	0	1
(3)オープン・ ディスカッション	34	58	24	1	0	9

【理由】

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [その他]:その他

セミナー全体の評価

《5:たいへん参考になった》

- ・ オープン・ディスカッションは、時間の都合上、少しか聞けませんでした。有川、引原両先生のお話は刺激に満ち、大変勉強となりました。[館]
- ・ 図書館職員も教員とともに学生教育に寄与すべきとの方向性を得たことは有意義でした。[館]
- ・ 図書館が大学改革に果たす役割の大きさ、学生からの視点の重要性を認識できた。[館]
- ・ 歴史的なパースペクティブの中で、具体論が展開された。[館]
- ・ 館長としての職務について再認識できた。今話題のオープンサイエンスについても理解が深まりました。[館]
- ・ オープンサイエンスの中身が良く分った。[館]
- ・ 有川先生の講演で、何故九大図書館が進化したかが分かった。[館]
- ・ 引原先生の数学的理論に裏打ちされた職員説得法の話が興味深かった(先生の人柄が感じられて)。引原先生のエディトリアルにおけるプレ・ポスト評価に及ぼす図書館のポテンシャルの話にオープンアクセスのひとつの意味が見出せた。[館]
- ・ 内容は良いがディスカッションの時間が短い。[館]
- ・ タイムリーなテーマ設定でたいへん参考になった。[部]
- ・ 図書館の機能、役割についてたいへん勉強になりました。[部]
- ・ 法律・基準等、図書館の位置付を体系的に知ることができました。また、図書館の役割はアイデアと行動力で充実させることが可能であることを改めて理解することができました。[課]
- ・ 大局の流れの中での役割について言及されたのが良かった。[課]
- ・ 引原先生のお話にあった静→動に流す、変化を起こして次の方向性を見つけてゆくという点、非常に心に残りました。ありがとうございました。[課]
- ・ 管理職としての視点を改めて教わった。また方向性を示していただいた。[課]
- ・ 今回は図書館に関わりの深い内容で、とても参考になりました。[課]
- ・ 内容が判かりやすかった。また参考になる事項が多かった。[課]
- ・ 有川先生の広範で深いお仕事の一部を知ることができ、とても参加になりました。又、引原先生のかかなり正直なお話から、いかにこれからの図書館現場を進歩させていくか、大変考えさせられる内容でした。[課]
- ・ 図書館の立ち位置を確かなものにするための方策について、勉強させていただきました。[課]
- ・ 今回のセミナーは図書館の運営・経営に関する話に統一されていてよかったと思います。理念と事例のバランスもよかったです。オープン・ディスカッションも多くの質問が出て盛り上がりました。[課]
- ・ 大学図書館の進化を確認し、今後進むべき方向性を知る機会となりました。[課]

- ・ 今後の大学図書館運営を考える上で、大変刺激的で示唆に富むお話であった。[課]
- ・ 基調講演は経験を踏まえた話で説得力があり、今後の大学図書館の課題が見え、とても参考になった。[課]
- ・ 大学図書館としての役割について、現在の問題点、今後の方針を立てるにあたって大変参考となりました。[その他]
- ・ 大学を取り巻く環境、流れを知ることができた。[その他]

《4: 参考になった》

- ・ 基調講演らしい講演で、ひじょうに有意でありました。図書館だけでなく、大学全体、社会全体のなかの図書館を考える上で参考になります。[館]
- ・ これまで名前だけしか知らなかった問題について深く知ることができた。[館]
- ・ 電子ジャーナル(オープンアクセス)は大学図書館運営費の大部分を占めていますが、図書館の一番大きなステークホルダーである学生に対して、電子ジャーナルはどの様に寄与しているのかを明確にしないまま大金を投資している。この事を踏まえ、もう少し教育を中心とした議論を行っていただきたいかった。図書館のステークホルダーとして学生が重要視されていない印象を受けた。[館]
- ・ 自大学のこれまでにについて詳細がわかり、今後の仕事に役立つから。Q&A により図書館の館長・職員の意識がわかるから。[館]
- ・ 少しかゆいところに手がとどかないような感じがあり、まだもやもや感があつた。しかし、オープンサイエンスについての認識はかなり深まった。博物館のバーチャルミュージアムもオープンサイエンスと関連することに気がついたことだけでも収穫があつた。[館]
- ・ オープンサイエンス、オープンアクセスについて具体的な事例等にもっと示してほしかつた。[館]
- ・ 機能と役割、たいへん参考になった。[館]
- ・ 大変勉強になったが地方の中小規模大学のため、人も金も貧困で図書館からの大学改革のむずかしさもかんじている。[館]
- ・ 本学にも取り入れることができる示唆に富む内容であつた。[館]
- ・ 基調講演では日頃考えていた項目をスッキリとまとめていただいたと感じました。学生目線による問題解決を再認識したところです。[館]
- ・ テーマと内容が少しずれていたように感じた。[館]
- ・ オープン・ディスカッションはむずかしい。話を理解しづらかつた。[館]
- ・ 基調講演者、コーディネータ共に未来の図書館像を考えるための含蓄ある話題をご提供頂いた。[館]
- ・ 基調講演は広範囲であり非常に貴重であつた。それだけにオープン・ディスカッションでは焦点があてづらい内容だったように感じた。[館]
- ・ 館長に就任して間もない立場で、あらためて図書館の役割、置かれている状況等につい

て知ることができました。大学に持ち帰って今回の成果をどう生かしていくかを大きな課題として受け止めました。[館]

- 大学図書館の将来ビジョンを考える上で、具体的なイメージが少し作れたような気がします。非常に参考になりました。今後の図書館職員に求められる資質・能力についても参考になりました。[部]
- 初めての図書館担当部長になりました。本日の話をうかがって、とても勉強になりました。いまいる大学で何ができるか、考えてみようと思います。[部]
- 今後の図書館の在り方、役割を検討する上での知見を得ることができた。[部]
- 内容そのものは興味深かったが、テーマとの関連が薄い点が気になる。[課]
- 大学図書館政策の Review の中での九大の取り組み、引原先生からのステークホルダーとの関係など示唆に富む内容であったが、自学のURAとの連携には難しさを感じた(性格が異なるため)[課]
- 図書館の立ち位置については、考えさせられました。[課]
- これから進化していかなければならない大学図書館の機能と役割について再認識することができた。研究支援の部分についてももう少しふれてほしかった。[課]
- 図書館からの大学改革についての提案、図書館の今後のあり方など、とても参考になり、頭の中の整理が出来た。[課]
- 大学図書館の役割、問題点をわかりやすく説明いただき、有益でした。なんとなく、すべきことが明確になった気がします。[課]
- 総長目線での考え方を聞くことが出来た。タイムリーな話が出てきた。[課]
- 大変参考になりました。[課]
- 答申や報告等を意識して図書館運営を行う事を再認識させられた。[課]
- 図書館に精通されている『先生方』が少なからずいらっしゃること(専門分野ではなく)。その先生方から図書館のあり方など紹介していただけたこと。概説(包括論)+詳論(焦点を絞る)の構成でもよいか?[課]
- 基調講演が参考になりました。[課]
- 講演については、大学首脳への戦略、予算の確保、「学生の視点」など図書館の経営に役立つお話しでした。[その他]
- これからの図書館のありかたの参考となった。[その他]

《3:ふつう》

- 引原先生の話が大変新鮮だった。図書館職員だけでは出ない論点だと思いました。オープン・ディスカッションはばらばらの質問大会になって意外だった。[課]
- テーマ設定に少し無理があるかもしれません。研究の分野により支援方法も変わると考えるべきで、半日の短い日程で掘り下げるのは困難と思います。[課]

《無回答》

- ・ 基調講演は参考になった[館]
- ・ ユーモアがあり、わかりやすかった。[課]
- ・ 図書館界をリードしていただき(る)った先生方のお話は大変に参考になりました。これからのマネジメントに生かしていけることと思います。[課]

II 今後のセミナー等で希望するテーマ

※[館]館長・副館長級相当職，[部]:部長級相当職，[課]:課長級相当職

- ・ オープンデータの具体化について[館]
- ・ オープンサイエンスへの対応[館]
- ・ オープンデータの具体的道筋と図書館のかかわり[館]
- ・ 電子ジャーナル、データベースの高騰化への対応策など[館]
- ・ オープンサイエンスについて[館]
- ・ 大学図書館の地域貢献とは(どのようなかたちが望ましいか?) [館]
- ・ 中小規模の図書館の事例なども紹介してほしい。[館]
- ・ 掛長、掛員も出席させていただけるテーマ[館]
- ・ 学生による選書、ラーニングコモンズでの学生の主体的な学び、図書館でのオフィスアワー(に類似した学習支援)、学生スタッフの活躍など、地方国大(徳島大など)では何年か前から取組が始まっています。マネジメント・セミナーでやるのか、総会の小委員会ネタなのか、事例研究ができる材料は既にあるので、どこかで話題にしても良いのではないのでしょうか。[部]
- ・ 人材育成[課]
- ・ 図書館の活性化に関する内容[課]
- ・ ラーニングコモンズの今後[課]
- ・ 第3の職種は成立するのか? [課]
- ・ 「著作物」の問題点と将来像[課]
- ・ 大学図書館経営と運用について。大学図書館職員の要員要請について。[課]
- ・ 大学運営に関しての実情[課]
- ・ オープンサイエンス、特にデータライブラリアンに関する事。電子リソース、特に電子書籍に関する世の中の情勢と図書館の方針について。今後の図書館と教育の関わり、図書館員に求められるものについて。[課]
- ・ 図書館経験がないので今後勉強させていただきます。[課]
- ・ 大学図書館の社会貢献、地域貢献[課]
- ・ 今回のような、大学を含めた図書館マネジメントに関する講演を期待します。[課]
- ・ 人材育成の効果的な手法[その他]

Ⅲ その他の感想, 希望, 意見等

※[館]館長・副館長級相当職, [部]:部長級相当職, [課]:課長級相当職, [その他]:その他

- ・ 各国立大学図書館の”個性”を知りあう機会となる工夫があればよろしいかと。(今は国の方針にどれだけ添って”実績”をあげているかの発表会となりがち)[館]
- ・ 従来の業務を重視する立場からの反論があってもよかった。大学として教育もしくは研究における図書館もしくは新組織の位置付けを明確にする必要。[館]
- ・ 企画他、大変お世話になりました。今後の励みになり、感謝申し上げます。[館]
- ・ 大変な準備とおもてなしに感謝致します。ありがとうございました。[館]
- ・ 地方大、小規模大の図書館を活性化する方策[館]
- ・ 新米館長としては、有川先生の基調講演は大変スケールの大きな話で参考になりました。ありがとうございました。[館]
- ・ いろいろ勉強になりました。[館]
- ・ 2日目の休憩時間もコーヒーがあると助かります。[館]
- ・ 掛長、掛員にも出席させたいと思います。今回は掛長の出席をお認めいただけなかったのですが、次回は出席をお認めいただけますようお願いいたします。[館]
- ・ 研究集会とマネジメント・セミナーをマージし、一体化できないか。[部]
- ・ 大変勉強になりました。[部]
- ・ 有川先生の講演が大変勉強になりました。ありがとうございました。[部]
- ・ 大変参考になりましたが、中～小規模大学の図書館とはベースが大きく違っていると思います。このままでは、ますます大学間の隔差が…。[課]
- ・ アンケートに年齢をきく意味は？[課]
- ・ 「図書館は重要」と自ら言っているにもかかわらず仕方がないと思います。大学内での地位を省みて、今後を考えるべきと思います。[課]
- ・ すばらしい企画をありがとうございました。[課]
- ・ 会場等もすばらしく大変お世話になりました。[その他]
- ・ それぞれの図書館長が前面に出て活躍されている姿に驚きました。大変参考になりました。[その他]

以上